

基盤力テストの 概要と実施状況

千代 勝実(山形大学 学術研究院)

山形大学の学士課程教育改革

- P • 3年一貫学士課程基盤教育による全学DPの実質化と学長主導の教学マネジメント
- D • 3つの基盤力(専門技能・キーコンピテンシー・国際語学力)の定義と育成
- C • 直接指標による教育評価(3年3回3種の基盤力テスト、授業外学修時間測定、ポートフォリオ等)(安田淳)
- A • 教学IRによる直接指標の評価検証と改善案提示(藤原)
- A • 山形大学アライアンスネットワーク:ステークホルダー(地域・企業・教育委・保護者)による教育評価と参加

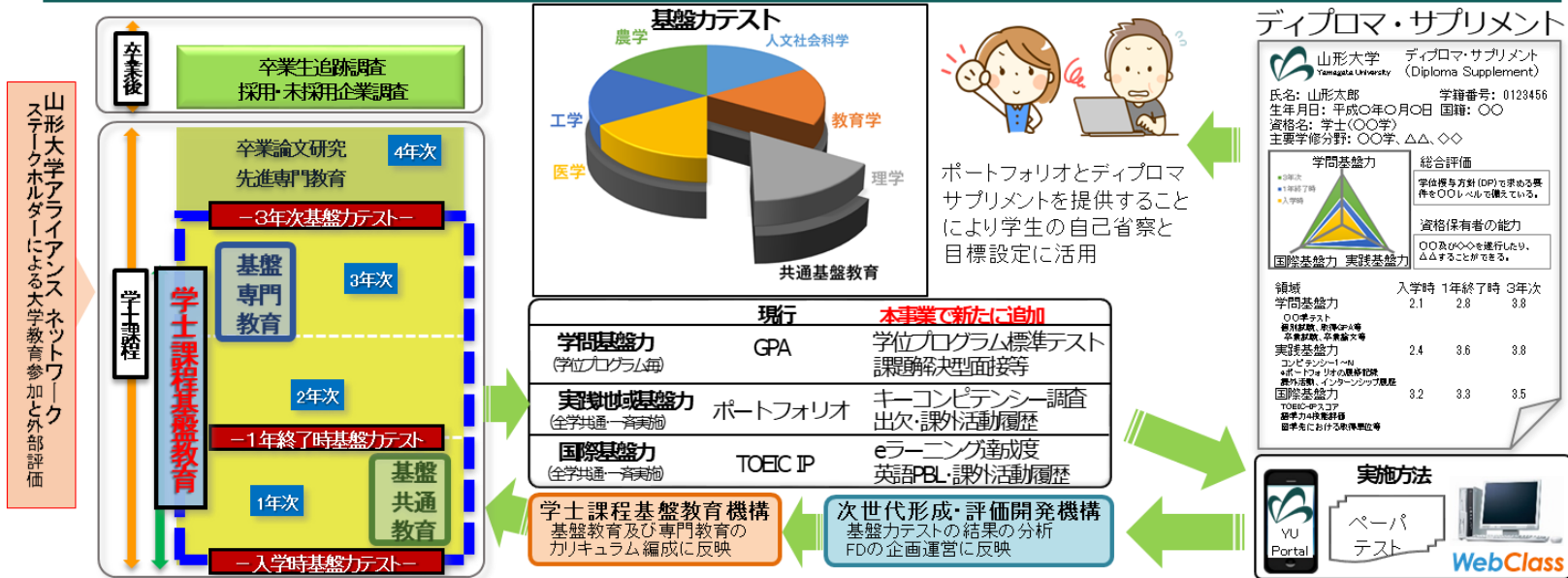
AP事業の構想概要

大学等名：山形大学

テーマ：テーマV（卒業時における質保証の取組の強化）



全学横断の基盤カテスト及び山形大学アライアンスネットワークによるステークホルダー外部評価を通じた卒業時の質保証
 学修達成度を3年3回3種の基盤カテストで定量化、客観的な指標による教育の質保証とPDCAサイクルの実質化
 地域企業・自治体・教育委員会・保護者からなる山形大学アライアンスネットワークを母体に教育改善アドバイザリーボードを形成

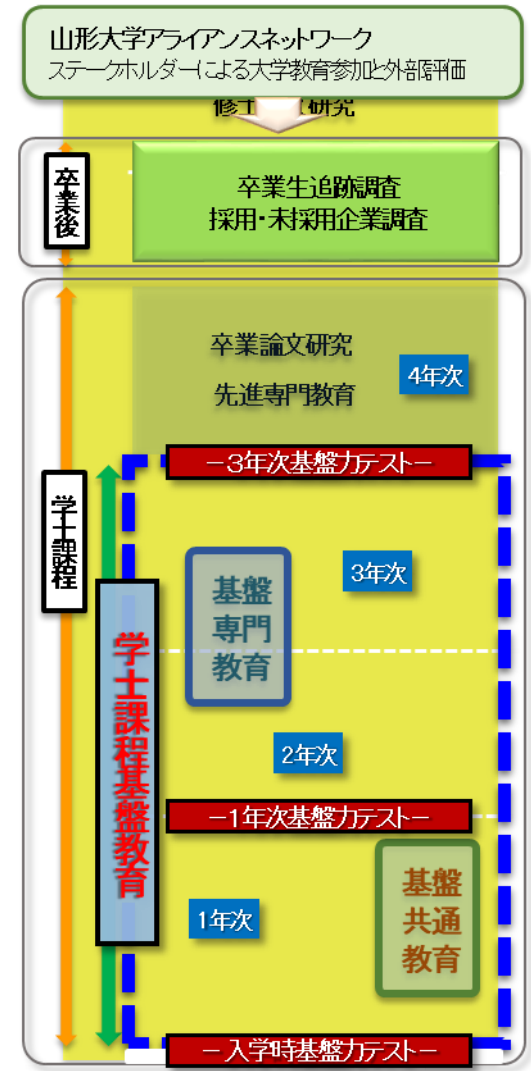


【事業の成果】	27年度 (実績値)	28年度 (目標値)	29年度 (目標値)	31年度 (目標値)
学生の授業外学修時間 (1週間当たり)	7時間	10時間	14時間	24時間
卒業生追跡調査の実施率 (調査回答者数/卒業者数)	7%	—	10%	15%
基盤カテストの実施率 (受験者/入学者数)	11%	86%	100%	100%

山形大学独自の基盤カテストの実施による直接評価をはじめとした教育指標の評価により教育改善を効率的に遂行
 ステークホルダー(地域企業・自治体・教育委員会・保護者)によるアドバイザリーボードが大学教育の評価と改善に積極的に関与
 インターンシップやPBL、フィールドワーク等の実践型・課題解決型授業を通して、学生の主体的・協働的な学びを充実
 学長主導の教学マネジメントによる全学統合的な3年一貫学士課程教育を実質化し、大学全体の教育パフォーマンスを向上

3年一貫学士課程基盤教育

- 専門教育と共通教育を再構築
 - 基盤共通教育
全学学位授与方針(DP)の実現
全学として教育の質保証
大学導入科目・基幹科目・キャリア・語学等
 - 基盤専門教育
学位プログラムDPの実現
カリキュラム・コースの全学最適化と学修効果の最大化
専門教育科目・学部横断科目

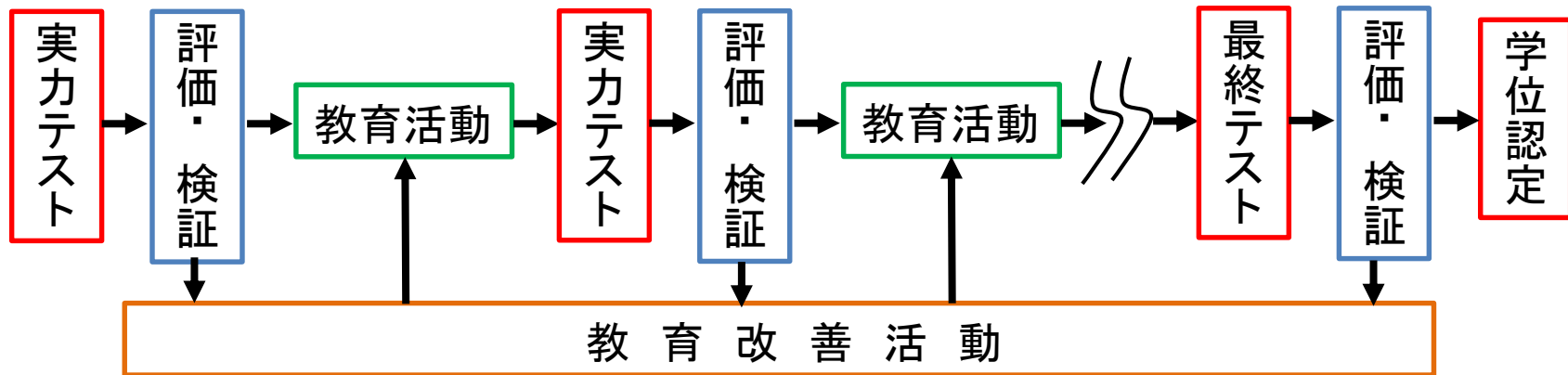


3つの基盤力の育成ー全学DPと関連した基盤力

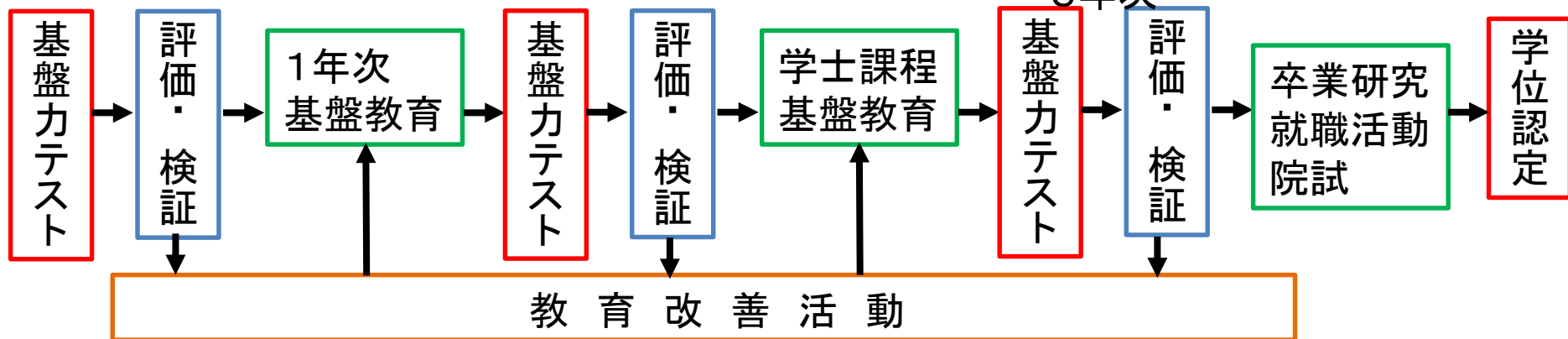
- 学問基盤力 ー 自律的に課題に取り組む専門力
専門知識の体系的習得と実践的な運用体験
総合大学の学際**の強みを生かした応用力の獲得**
- 実践地域基盤力 ー 社会でリーダーシップを発揮する人間力
力強い学びを保証するキーコンピテンシーの育成
地域課題に挑戦し生涯学び続ける自己学習力獲得
- 国際基盤力 ー 実践的な英語で多様性に挑戦する国際力
基盤としての英語力を4技能・専門別に習得
英語PBLの実施、様々な活動を通じた国際理解

卒業時の質保証：なぜ学士課程基盤教育？

そもそも質保証や達成度測定を自然に考えると…



山形大学 学士課程基盤教育



卒業時の質保証：なぜ直接指標・客観指標？

- そもそも教学データはビッグデータではない
 - 1学科コース 数十～数百人(統計的確度は低い)
 - 1サイクル4年かかるがそれ以前に経営判断
- 指標の有用性や精度が低いと説明力がない
 - 精度が低い・フォーマット不揃いでは使えない
 - 解釈の余地が大きい指標は結論を導かない
- 解析するための人的・金銭的リソースが少ない
 - 少数の単純明快・基本的な指標で分析
 - 種類多い・精度低いと特異値が必ず発生

卒業時の質保証：なぜ基盤カテスト？

- カリキュラムチェックリストは質を保証するわけではない
 - 枠組み・メニューであり自己点検の一部
- GP/GPS/GPAは質保証・達成度測定の指標ではない
 - GP/GPAは学位プログラムの修正・授業担当者の変更・インセンティブによって容易に変動する
 - その授業時での評価で「大学環境」の教育能力とは異なる、卒業時に維持されているか不明
 - 暦年・学部/学科・大学間で比較不能
- ポートフォリオは整理が難しく分析が不可能
 - ポリシーを持って収集していても雑多な集積

卒業時の質保証：キーコンピテンシー

- 学位プログラムで必要とされるキーコンピテンシーは異なる
 - 既存の枠組みを疑い現場で臨機応変に課題解決する：
ベンチャー企業の社長：○ 外科医：×
- TPOに応じて必要とされるキーコンピテンシーは異なる
 - 全ての行動で全てのパラメータが最大な人は暑苦しい
 - 必要な時に必要な行動特性を示す「適応」を指導
- より基本的な性格・習慣の測定(5因子調査)を導入
 - 心理学的・科学的に確立されている
 - 外向性・協調性・勤勉性・情緒安定性・知的好奇心

卒業時の質保証：授業外学修時間の測定

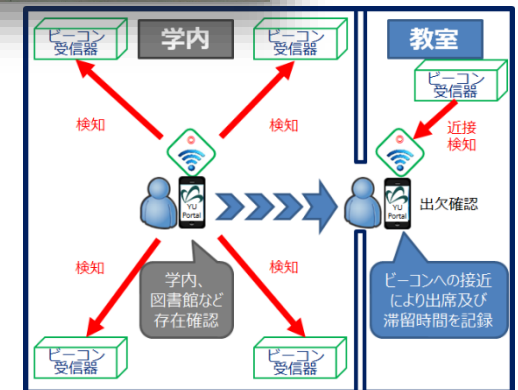
• 現行

- 学修成果等アンケートでの質問
- eラーニング
- 学修日記(みずから学ぶ)

• 計画

- スマホアプリでの入退室管理
(教室・学内・図書館等)
- モニター学生による記録

学生ポータルアプリ・基盤カテストプラットフォーム・
ビーコン(BLE)による入退室管理・学生スケジューラは
TIM(タイムインターメディア)さんに開発していただきました。
感謝！



卒業時の質保証：基盤力テスト

- 学問基盤力テスト(1年次)
 - 数的文章理解・数学・物理学・化学・生物学
- 実践地域基盤力テスト
 - 5因子調査(入学当初)
 - 出欠状況・ポートフォリオ(現存)
 - フィールドワーク・インターンシップ・課外活動実績
- 国際基盤力テスト
 - TOEIC(現在2回実施)
 - eラーニング、留学等国際関係活動実績

昨年よく尋ねられた質問

Q. 基盤力テストって本当にできるんですか？

A. H29実施できました。

Q. テストを全学部で実施ってどうやって説得したんですか？

A. 質保証でテスト利用はわかりやすい。

各学部とも企画に積極的に参加頂いている。

Q. 分析や検証は学内的に本当にできるのか？

A. このあとの分析を御覧下さい。

Q. 自分のところでできそうだとは思えない・・・

A. 相互信頼の醸成とバーターが必要です。

最後に

卒業時の質保証・学生の達成度は、授業のパフォーマンスやテストやGPAだけで測れるものではありません。

「学生の生活環境の一部としての大学」における教育の質保証は、学生や保護者、地域や企業、そして国民といったステークホルダーが、この大学はすばらしい、期待できると思ってくれることが一つの形です。

もっとも身近なステークホルダー「自分」(教員・職員)が、所属する大学を好きになって、もっともっと良くしようと思ひ、今学生であれば、この大学に入学し学生生活を過ごし卒業しようと思えなければ、他人は説得できません。

自分が好きになれる大学教育を作りましょう。